

Ⅱ 農業・農村の振興方向

1. 基本課題についての方向

農業者の高齢化による農家数の減少や耕作放棄地の増加、地球温暖化に起因する異常気象や食の安全の確保など様々な課題に対応するため、以下の活動に取り組みます。

(1) 国内外への販売促進・輸出産地の育成

ウメ、カンキツ、ミニトマト、エンドウ類、小玉スイカ、スターチスなどの特産品が持つブランド力をさらに高めるため、地域内外で実施するPR活動などの取組を支援します。

(2) スマート農業技術の確立・普及

施設園芸では、ICT技術を活用した環境制御技術の導入により、高品質安定生産を推進します。また、果樹や水稲などの露地品目では、省力化を可能とする農業用ドローンや電動式一輪車の導入を推進し、労働力の減少に対応できる産地化を推進します。

(3) 日本一の果樹産地や次世代の野菜・花き産地づくり

スマート農業の推進に加え、災害に強いハウスの整備や労働力の確保を支援します。また、地域特産品が持つブランド力をさらに高めるため、高品質安定生産を推進します。

(4) 担い手の確保・育成

農業経験が浅い新規就農者やU・Iターン就農者には、4Hクラブへの参加やオープンセミナーなどを通じて交流の促進と栽培技術の習得を図ります。また、関係機関が連携し、就農計画の策定や研修制度の充実、フォローアップ活動の強化などの支援を行います。

認定農業者には、農業の担い手として収益性を高めることを基本に経営改善に対する支援を行います。また地域農業のリーダーである農業士や次代を担う4Hクラブの活動を支援を行います。

このような活動を組み合わせることにより、多様な担い手の育成を目指します。

(5) 農業経営の安定化・安全安心な農産物の安定供給

わかやま農業経営塾や専門アドバイザー派遣事業を活用し、農業経営の安定化を図ります。

クビアカツヤカミキリなどの重要病害虫や鳥獣による農作物被害防止対策に努めます。また、緑の食料システム戦略の取組を推進します。

(6) 活力ある農村づくり

世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」の国内外への発信、また食育、女性の活躍や農副連携などの取組を推進します。農地のあっせんによる担い手への農地集積を推進します。

２．主要農産物の振興方向

○ 果 樹

当地方は、梅干しや梅酒用として品質の優れた豊産性の「南高」を中心に全国トップクラスのうめ産地が形成されるとともに、温暖な気候と傾斜地を利用した柑橘類が栽培されています。

うめについては、基本的な栽培管理技術の徹底に加え、梅干以外の用途に利用される「露茜」の収量及び収益の安定を目指します。また、青梅の省力化及び安定供給のため、低樹高化（カットバック）と摘心処理を組み合わせた技術の推進や、収穫期などの農繁期における労働力不足の解消に取り組みます。うめ新害虫については、「クビアカツヤカミキリ」が令和５年５月に御坊市で初めて発生し、日高川町及び由良町においても被害が確認されたため、伐採などの蔓延防止処置に取り組んでいます。

温州みかんでは、「ゆら早生」や「YN26」などの優良品種の生産拡大を推進するとともに、省力化や高品質化を目指した技術導入を推進し、産地ブランドの強化による生産者の所得向上を図ります。

「はっさく」や「不知火」などの中晩柑類については、越冬完熟果生産や冷蔵貯蔵技術を活用し、付加価値が高く長期間出荷できる体制づくりを進めます。また、有望品種の探索を行います。



うめ「露茜」



ゆら早生発祥の地「石碑」

○ 野 菜

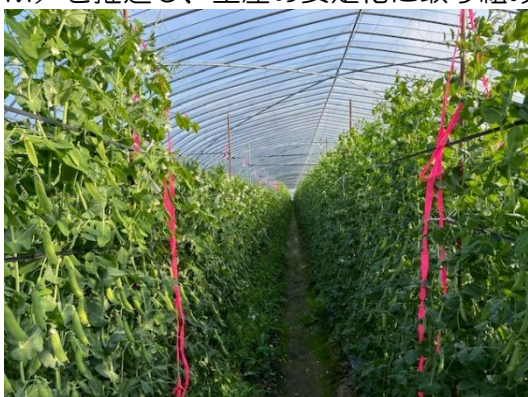
当地方は、県内有数の野菜産地であり、温暖な気候を活かしてエンドウ類や小玉すいか、ミニトマト、キュウリ、ピーマン、ブロッコリー、イチゴ、ニンニクなど多くの品目が栽培されています。特にエンドウ類やミニトマトは、産地として市場から高い評価に加え高付加価値化によるブランド力を有しており、今後の気候変動や高齢化に対応するため、さらなる産地強化に取り組めます。

施設栽培においては、耐風性・耐暑性を高めたパイプハウスの導入などによる施設の高度化を図るとともに、ICT技術を活用した環境制御技術の導入による高品質化栽培と生産性の向上に取り組み、経営の安定化を図ります。

また、草丈を低く抑えることが可能なウスイエンドウの短節間系統品種「光丸うすい」の施設栽培への導入や露地野菜への省力化機械の導入など省力・軽労化の推進に

取り組みます。

近年の気候変動等の影響による難防除病害虫の発生が増加しており、効果的な農薬防除に加え、耐病性品種やフェロモン剤の活用など、総合的病害虫・雑草管理（IPM）を推進し、生産の安定化に取り組みます。



省力化が期待される新品种のうすいえんどう
「光丸うすい」（左列奥側）



ミニトマトの栽培環境をスマートフォンで
モニタリング

○ 花き

当地方では、温暖な海岸部地域にスターチス、宿根カスミソウを主とした全国トップクラスの施設花きの産地が形成され、中山間地域には、千両やさかきなどの切り枝類が生産されています。

施設花きでは、低温管理下での安定生産技術や高品質安定生産のための環境制御技術の導入を推進します。また、経営の安定化を図るため、メイン品目を主体としつつ、補完品目の導入を推進します。主要品目のスターチスでは、県育成品種の導入による生産コストの低減や赤葉症状などの生理障害の原因究明、難防除病害虫対策に取り組みます。

中山間地域では、省力的な新規品目を探求するとともに、花木類や切り枝類の産地強化を図ります。

また、地元の児童に花きに親しんでもらうため、生産者が主体となり実施されている「花育」の取り組みや「母の日参り」などの花き消費拡大活動について、関係機関と連携し支援を行います。



日本一の作付面積を誇る
スターチス・シヌアータ



小学生への花育活動